

第69回滋人教大会レポート

第2分科会（人権尊重のまちづくり）

学区で行われる行事で人権意識を高めよう！

大津市「人権・生涯」学習推進協議会連合会 土方 敦

現在、我学区では、自治会活動、PTA活動等組織として行われてきた活動は参加者が激減し、まちづくりに対して関心の高い人だけでの活動が中心となりつつあります。

自治会活動では自治会員の負担を軽減し、会員数がこれ以上減少しないように取り組む姿が見られます。そんな中で「人権推進委員」を自治会員に依頼し、人権講座への参加を呼びかけても「負担のない程度に」「できる範囲で参加お願いします」と呼びかけることが精一杯の現状です。

そんな中で人権研修や集会に参加される方は「人権意識の高い方が中心」だったり「動員で呼びかけられた方が多い」のが現状です。とすることでいつも研修や集会で出会う方は同じ顔ぶれが多いです。

自治会員が学区でも50%と言う現状でその中でも限られた方しか参加していない現状を考えると「人権意識の高い20～30%の方」はどんどん人権意識は高くなっていきますが残された「70～80%の方」は置き去りにされているわけです。

そんなことを考えると今までの『集まって人権について考える研修や集会』は市のリーダーとして取り組む人への知識を高める場にして、各学区ではもっと広い範囲の住民へ「人権について考えたり気付いたりする」場を作り呼びかけていく必要があると考えました。

その取組の1つとしてはじめに取り組んだのが学区内での『文化祭への参加』でした。真野北学区では地域の文化祭を真野北文化振興会を中心に取り組んでおられます。

私が関わりだしたのが「コロナ禍明け」の2022年からでその回は長年人推協の事務局長をされていた方の企画で「ありがとうの木」のコーナーという取組をしました。

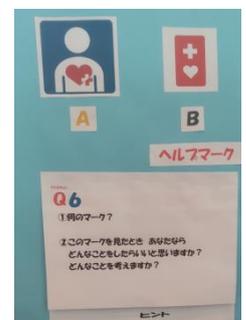
日頃から「ありがとう」という気持ちを花びらカードに書いて木の描かれた模造紙に貼り付けていくという活動です。

そのとき、親子連れでできていた子どもたちも結構参加してくれて「だれにありがとうを言いたい？」「見まもり隊の人かな～？」など色々な会話も聞かれ「良い感じ」と思いました。

2023年は積極的に子どもが参加してくれる企画をコーナーとして作ることにしました。コーナー名は「ピンポンゲームにチャレンジして、クエスチョンに答えよう」という子どもにもちょっと興味のわきそうな名前を付けました。ゲーム感覚で『障害を持つ方に関するマーク』に関するクイズに答えるというコーナーでした。

ピンポンゲームにはスマートボール・カップインボール・ジャンピングボールの3つのピン球を使って挑戦するゲームを用意しました。3つの中から選んだゲームで出た得点によってその番号の「クエスチョン」に答えてもらうという流れです

「クエスチョン」の内容については右図にあるような感じですがマークを提示し「何のためのマークか？」ということと「マークを見たときに自分は何ができるのか？」ということでした。なかなか子どもだけでなく大人も「何ができるか？」という質問は難しいこともありましたが特に大事なところでした。そこで悩んでもらえることが大事なポイントだと思いました。親子でゲームに挑戦して親子でクエスチョンに答えてくれることもありました。「わからん、わからん」と言っている子どもに、お母さんが「例えばこのマークを持っている人が信号で待ってはったらどうする？」と具体的な例を言われて考えだしてくれ



る子どもがいました。

また、中学生が4～5人できてくれたときには「わからんな～」と言いつつお互いに意見を出し合い答えを書いてくれたことも良かったと思いました。

ゲームがあることで何回もゲームにチャレンジしてクエスチョンに答えてくれる小学生も何人かいました。

ほとんど『マーク』とは関係のないゲームでしたが、ゲームで興味を引いて、町の中にある『マーク』に関心を持ってもらったことは、成功だったのではないかと思います。

文化祭以降に『ヘルプマーク』を真野北支所にもらいに来た方が2名おられたという報告も聞きました。

『マーク』が使えることもその『マーク』が示す意味も知っている人が増えるためには一人でもそのことを知って、あちこちでその「あのマーク何のマークか知ってる？」とささやいたりクイズにしたりして広めていけると人に優しいまちになるなと思いました。

2024年の文化祭では「真野北学区土日対策実行委員会」とコラボして「パラリンピック・障スポ」の体験コーナーを考えました。

・ゴールボール ・ポッチャ ・競技用車イス

現在ではネットやテレビで知っていることは色々ありますが、その知っていることを実際にさわったりあつかったりしたことがない人も多いです。私自身もゴールボールについては2時間ほどの体験練習に初めて参加してみて、いっしょに汗をかいたり、ちょっとした一言を聞いたりしているうちに目に障害を持った方の世界を少しですが見る事ができたような気がしました。

『子どもが参加することで一緒に親も参加する、または参加した子どもから話を聞く』ということが一番の目標でしたが、意外にも大人の参加も多く、真剣に体験して色々感想も聞くことができました。

ゴールボールについては最初に実物のボールを触ったり、転がしたりしました。「硬くて重いね～」「そんなに大きい音はならないね～」という感想を持つ人も多かったです。目隠しをして静かな中で耳を澄ませて転がってくる鈴のなるボールを手で止める体験では、どの人もしっかり音を聞いて転がってくるボールを止めることができていました。ただ「このボールが速いスピードで転がってきたら怖いね～」と実際の競技を思い浮かべて感想を持つ人もいました。

学区での人権問題に取り組んでいくにはテーマが色々ありすぎて何から取り組んでいけばよいのか悩んでしまいます。私は町内を走る自動車の後ろに貼られていた『チョウチョマーク』を見たとき『何のマークだろう？』と疑問を持ち調べてみたことから文化祭でのクイズに取り組んでみることにしました。街中や電車、バスなどでよく目にする『マーク』が何を示すのか？『マーク』を目にしたことはあってもその意味を知らない人も多いです。『誰もが気持ちよく生活できる街』を目指すことが学区の人権推進の役割と考えると、まずは身近なことから投げかけていくことが必要ではないかと考えます。

【最後に課題を一つ】

ある地区のサロンでこのマークの話をしていたところ「私はヘルプマークをもらえることを知っていましたが、つけることを躊躇しています。その理由はヘルプマークを見て反対に嫌がらせをする人もいるという話を聞いたからです」という答えが返ってきました。このような行動をゆるさない気持ちを育てていくにはどうすればよいのでしょうか？